Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

News Letter to Arts Crew

3月号—No.275
2018.2.25
（毎月1回25日発行）

【煤竹色（すすたけいろ）】暗い茶褐色。

今では「煤竹」と言われてもピンとこないが、茅葺屋根の古民家の天井格子などに用いられていた竹が囲炉裏の煙によって100年、200年と長い年月をかけて燻され、深い茶褐色や飴色に美しく変色した竹のこと。今では大変希少なものとして、茶道具、竹細工、内装材などの材料として取引されている。色名としては室町時代頃に生まれ、江戸時代前期に着物の裏地や帯の色として流行した。

●目次／*contents*

今月のニュース …… 2
平成29年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」表彰式
平成29年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」報告

財団からのお知らせ …… 4
ステージラボ滋賀セッション開催のお知らせ／平成29年度「美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ」終了／「第18回地域伝統芸能まつり」テレビ放映のご案内

今月の情報 …… 5
地域通信／アーツセンター情報

今月のレポート …… 12
沖縄県竹富町　シンポジウム「民俗芸能の未来のために 今できること—継承者育成の実践と精神—」

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル9F
Tel. 03-5573-4066　Fax. 03-5573-4060
URL: http://www.jafra.or.jp/

平成29年度
地域創造大賞（総務大臣賞）表彰式

平成29年度
公立美術館共同巡回展開催助成事業

●平成29年度地域創造大賞（総務大臣賞）表彰式

左：小倉將信総務大臣政務官から表彰を受ける田中誠太八尾市長／右：出席者記念撮影

平成29年度「地域創造大賞（総務大臣賞）」の表彰式が1月19日、東京・グランドアーク半蔵門で行われました。この賞は、地域創造設立10周年を記念して、地域における文化・芸術の振興による創造性豊かな地域づくりに特に功績のあった公立文化施設を顕彰する総務大臣賞として創設されたものです。これまでに103施設が表彰され、その活動は広く全国に紹介されています。14回目となる今年度は全国から7施設の受賞が決定し、小倉將信総務大臣政務官ご臨席の下、表彰式が行われました。

主催者である一般財団法人地域創造の板倉敏和理事長の挨拶に続き、表彰状・盾の授与が行われました。また、小倉政務官からは、「こうした地域に密着した文化・芸術活動の取り組みは、地域力の強化につながるものであり、人々が地域で支え合う社会の構築に大きく貢献していただいていると考えています」（政務官代読）という野田聖子総務大臣の祝辞が披露されました。

受賞施設を代表し、河内音頭発祥の地であり、芸術文化振興プランにより「芸術文化のあふれるまちづくり」を推進してきた八尾市の田中誠太市長より、「八尾市は本年4月に市制施行70周年を迎えるとともに、中核市へ移行致します。また、この度、受賞いたしましたプリズムホールも開館30周年を迎えます。本市では“まちは人　やおは人”を理念に掲げ、子どもたちはその存在を大切に感じてくれる家族や地域に守られて心豊かに育ち、大人は生涯にわたって生きがいを感じ、人と人が心でつながり活躍できるまちづくりを進めています。プリズムホールにおいてもたくさんの文化的な取り組みを行ってきましたが、芸術の素晴らしさを伝えるとともに、そこで新たな仲間と得た経験は人生を力強く生きていくための糧となっています。このように公立文化施設は、人々をつなぎ、元気づけ、創造力を発揮させて、その地域の未来を輝かせる、すなわちより良い地域コミュニティの再生に大きな役割を果たすものです。私たち受賞施設一同はこの栄誉を励みとして、人と人が心でつながり活躍できるまちづくりをさらに推進してまいります」という決意を込めた謝辞をいただきました。最後に田村孝子委員長から各受賞施設についての講評が行われました。

今回の賞は、受賞された施設のみならず、それらの施設を支え、文化・芸術による地域づくりに参加していただいている地域の皆様のご協力に対する感謝を込めて贈られるものです。心よりお祝い申し上げますとともに、今後のさらなるご活躍を期待しています。

●平成29年度地域創造大賞（総務大臣賞）受賞施設
- 北上市文化交流センター さくらホール［岩手県北上市］
- 中新田バッハホール［宮城県加美町］
- 大泉町文化むら［群馬県大泉町］
- 東京都美術館［東京都］
- 大田区民プラザ［東京都大田区］
- 八尾市文化会館（プリズムホール）［大阪府八尾市］
- 伊丹市立音楽ホール（伊丹アイフォニックホール）［兵庫県伊丹市］

●地域創造大賞審査委員会
- 委員長
田村孝子（文化ジャーナリスト、公益社団法人全国公立文化施設協会 副会長）
- 委員長代理
加藤恒夫（一般社団法人芸術資源マネジメント研究所 代表理事）
- 委員
板倉敏和（一般財団法人地域創造 理事長）
熊倉純子（東京芸術大学音楽学部音楽環境創造科 教授）
小林真理（東京大学大学院人文社会系研究科 教授）
坪池栄子（株式会社文化科学研究所 編集プロデューサー）
仲道郁代（ピアニスト）
柳沢秀行（公益財団法人大原美術館 学芸課長）
吉本光宏（株式会社ニッセイ基礎研究所研究理事（芸術文化プロジェクト室長））

＊五十音順

●平成29年度「公立美術館共同巡回展開催助成事業」報告

左：「学芸員展示解説」（新見美術館）／中：「唐津幼稚園見学の様子」（唐津近代図書館）／右：「ワークショップ『水墨画にチャレンジ！』」（八幡浜市民ギャラリー）

平成28・29年度公立美術館共同巡回展開催助成事業「日本画山脈　再生と革新～逆襲の最前線」展が、新見美術館（2017年4月13日～5月28日）、唐津市近代図書館（6月3日～7月17日）、蘭島閣美術館（8月26日～10月9日）、八幡浜市民ギャラリー（10月15日～11月26日）にて開催されました。

平成27年度に新設された、公立美術館共同巡回展企画支援事業（以下、企画支援事業）を経て実施に至った初めての展覧会です。企画支援事業は、公立美術館共同巡回展開催助成事業への申請を目指して、自主的に企画する巡回展の企画検討作業を支援するものです。具体的には、会議旅費、調査費等への助成や、企画内容について専門知識をもつアドバイザーの派遣、参加館募集の支援を行います。平成27年度に企画支援事業として採択され、日本画の技法に着目した展覧会を開催したいという新見美術館、蘭島閣美術館の構想から出発。泉屋博古館分館長の野地耕一郎氏をアドバイザーに迎え、地域創造レターの告知等で参加館の募集を行いました。調査を進めるうちに、参加館の所蔵作品の中で特に充実している戦後の日本画に着目し、「戦後日本画の再生」「現代の巨匠」「新世代の日本画」の3章立てとすることとなり、当初のテーマだった技法については、作家本人や専門家による解説や再現を充実させることで方向性が決まりました。その後、唐津市近代図書館、八幡浜市民ギャラリーが加わり、平成28・29年度公立美術館共同巡回展開催助成事業（2カ年）へ申請をし、採択されました。平成28年度には、新見美術館、蘭島閣美術館の所蔵品を中心に出品作品を吟味し、出品交渉、展覧会開催に向けた打ち合わせなど具体的な作業を行い、平成29年度開催に向けて準備。そして平成29年度に、戦後から現在に続く日本画の伝統と革新の系譜を紹介するとともに、技法に着目した解説や再現を試みることで日本画の新たな魅力を創出することを目的とした、全106作品を展示する展覧会の開催に至りました。

地域創造の美術館事業では、展覧会の開催のみならず、企画内容に即したワークショップ等の地域交流プログラムも実施しています。各館共通のジュニアガイドの作成、出品作家による水墨画等のワークショップなど、積極的に各館が工夫をこらし、さまざまな年代の方々に日本画に親しんでもらうための体験型イベントが行われました。また、公立美術館共同巡回展企画支援事業として1年間、公立美術館共同巡回展開催助成事業として2年間支援することで、学芸員のノウハウの蓄積にも繋がる実り多い事業となりました。

公立美術館共同巡回展開催助成事業をはじめとする、平成31・32年度公立美術館活性化事業への申請は、平成30年6月頃を目処に行う予定です。地域創造ホームページをご確認の上、ふるってご応募ください。

上：「下蒲刈中学校アウトリーチ」（蘭島閣美術館）
下：展示の様子（新見美術館）

●平成29年度公立美術館活性化事業
【公立美術館共同巡回展開催助成事業（2カ年）】
平成28・29年度公立美術館共同巡回展開催助成事業「日本画山脈　再生と革新～逆襲の最前線」
［主催］日本画山脈展実行委員会
［展覧会アドバイザー］野地耕一郎（泉屋博古館分館長）
［会場］新見美術館（岡山県新見市）、唐津市近代図書館（佐賀県唐津市）、蘭島閣美術館（広島県呉市）、八幡浜市民ギャラリー（愛媛県八幡浜市）
［助成］（一財）地域創造

●公立美術館活性化事業に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

財団からのお知らせ

●ステージラボ滋賀セッション開催のお知らせ

ステージラボは、公立文化施設等の職員を対象に、ワークショップなど体験型プログラムやグループディスカッションなど、講師と参加者の双方向コミュニケーションを重視したカリキュラムに取り組む、少人数形式の実践的な研修事業です。平成30年度セッションは、滋賀県にある滋賀県立芸術劇場びわ湖ホールを会場に3コースを予定しています。なお30年度のステージラボは、滋賀セッションの1回のみの開催となります。

詳細および参加者募集については、今後地域創造レターおよび当財団ウェブサイトにてお知らせします。

◎ステージラボ滋賀セッション概要
［日程］2018年7月3日（火）～6日（金）
［会場］滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
（滋賀県大津市打出浜15-1）
［コース（予定）］•ホール入門コース
•事業入門コース
•自主事業（音楽）コース

◎滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール
文化発信の拠点を目指して1998年に開館し、今年20年の節目を迎えます。当時、西日本で初となる本格的な4面舞台を備える大ホールは、アクトシティ浜松、新国立劇場に次いで日本で3棟目となり話題になりました。中ホール・小ホールを付帯するオペラ、バレエなどの舞台芸術専用のホールも有し、設備・音響そのものの素晴らしさに加えて琵琶湖のほとりに面した美しいロケーションのため、海外アーティストからも高い評価を受けています。（公財）びわ湖芸術文化財団が運営し、開館当初から芸術監督によるプロデュースオペラや子どものためのオペラを制作。日本で唯一の専属声楽アンサンブルを有し、アウトリーチや地域の演奏団体・ホールとの協働事業を行うなど、“関西オペラの拠点”として音楽文化の振興と普及に貢献されており、平成23年度には地域創造大賞（総務大臣賞）も受賞されております。

●平成29年度「美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ」終了

今年度から、アートミュージアムラボに代わり、新しい美術館向け研修事業が始まりました。文化を通じた地域活性化が重要になり、ますます美術館のマネジメント（運営）が大切になってきています。そこで、それぞれの地域における美術館運営の悩みに答えるため、下記のような内容で研修事業を行っています。

- マネジメント研修の講師を2年にわたり派遣
- 費用は地域創造が負担
- 実施の時期、取り上げる課題などは美術館の希望を最優先

平成29年度は以下のとおり、開催しました。

◎札幌市
［日時］2017年9月21日（木） 13：30～17：30
［会場］北海道立近代美術館
［テーマ］美術館と観光
＊「アートギャラリー北海道」構想など、観光に力を入れる流れの中で、改めて美術館と観光について考えるプログラム。

◎熊本県
［日時］2017年11月27日（月） 13：30～17：00
［会場］熊本市現代美術館
［テーマ］ミュージアムがひとつになるために
＊美術館の地域における立ち位置を学芸員、行政当局職員全員で見直すプログラム。

熊本ゼミの様子

●「第18回地域伝統芸能まつり」がNHKで放送されます

2月25日（日）にNHKホールで開催の「地域伝統芸能まつり」がテレビ放送されます。今年度は「鬼」をテーマに、日本各地域の伝統芸能7演目と、古典芸能1演目が披露されます。ぜひご覧ください。

◎放送予定日
2018年3月18日（日） 14:30～16:00
NHK Eテレ「まつりの響き ～第18回地域伝統芸能まつり」

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部　研修担当
Tel. 03-5573-4068

●「美術館出前（オーダーメイド）型ゼミ」に関する問い合わせ
総務部　高野
Tel. 03-5573-4143

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

地域通信

●データの見方
情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック
[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島
[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山
[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知
[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先
ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060　Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当　情報担当

●2018年5月号情報締切
3月30日(金)

●2018年5月号掲載対象情報
2018年5月～7月に開催もしくは募集されるもの

地域創造ウェブサイト「人材ネットバンク」掲載情報募集中
当財団ウェブサイト内に以下の情報を掲載するページを設けています。
◎公共ホール等の求人情報
◎公共ホール等で実施する人材育成研修の開催情報
掲載・申込方法など詳細はウェブサイトをご覧ください。　http://www.jafra.or.jp/

北海道・東北

●北海道旭川市

北海道立旭川美術館
〒070-0044　旭川市常磐公園内
Tel. 0166-25-2577　土岐美由紀
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/abj/top.htm

アート・クイズ・ギャラリー

作家たちがさまざまな思いを込め、色や形や素材、そして技を駆使して生み出したアートの数々に、クイズを手掛かりに近づき、魅力を味わう展覧会。絵画や彫刻、工芸作品など57点の収蔵品を紹介する。会場内には子どもが楽しめる、つくって遊ぶコーナーも設置されるほか、ロビーには上川管内の中学校美術部員がQの字をデザインしたミニアートが展示される。
[日程] 2月6日～4月15日
[会場] 北海道立旭川美術館

三宅一樹《素脚詞Ⅶ》(2003年)

●北海道夕張市

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会
〒068-0403　夕張市本町3-336
Tel. 0123-57-7652
http://yubarifanta.com/

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2018

1990年にスタートし、今年で28回目を迎える、映画人・観客・市民が三位一体となった夕張を象徴する映画祭。世界中で大ヒットした『ジュマンジ／ウェルカム・トゥ・ジャングル』を含む5作品の特別招待作品、映画祭おすすめの「ゆうばりチョイス」、若手作家のための「オフシアター・コンペティション」など、100作品を超える作品を上映。「三船敏郎レトロスペクティブ企画」では、2017年に公開されたドキュメンタリー『MIFUNE: THE LAST SAMURAI』と『羅生門』(黒澤明監督)のデジタル完全版が上映される。ほかにも、ゆうばり映画祭らしい雪のイベントも多数予定。
[日程] 3月15日～19日
[会場] 合宿の宿ひまわりほか

●北海道士別市

あさひサンライズホール
〒095-0401　士別市朝日町中央4038
Tel. 0165-28-3146　漢幸雄
http://sunrisehall.web.fc2.com/

体験版　芝居で遊びましょ♪ Vol.15『ゼブラ～白と黒とシマウマと』

2003年に始まり、毎回公募でキャストやスタッフを募り50人以上が参加する市民演劇制作企画。経験者も初心者も同一線上でスタートし、公演を通じて演出家や出演者、スタッフらとの交流を図る。また演出家を毎回変えることで、多様な表現方法にふれる。今回は田村孝裕(劇団ONEOR8)が新作を書き下ろし、約20人の市民キャストが出演する。
[日程] 3月10日
[会場] あさひサンライズホール

平成28年度・第14回作品『夕日峠第十六診療所のニセ医者と患者ども』(作・演出中島淳彦)

●青森県十和田市

十和田市現代美術館
〒034-0082　十和田市西二番町10-9
Tel. 0176-20-1127　金澤韻
http://towadaartcenter.com/

ラファエル・ローゼンダール：ジェネロシティ　寛容さの美学

インターネット空間を発想と表現の場とするアーティスト、ラファエル・ローゼンダールの公的美術館では世界初の個展。ローゼンダールは、ネットに接続してさえいれば見ることのできるウェブサイト作品など、現代のデジタル化社会における美術作品のありようについて一石を投じる重要な実践をしている。今回は、3つの展示室で、大規模な映像インスタレーション、タペストリー作品、英語俳句、インタラクティブ映像などを紹介する。
[日程] 2月10日～5月20日
[会場] 十和田市現代美術館

●山形県米沢市

米沢上杉文化振興財団
〒992-0052　米沢市丸の内1-2-1
Tel. 0238-26-2666　藤元周平
http://www.denkoku-no-mori.yonezawa.yamagata.jp/

五人囃子の世界　～謡と囃子と、ときどき舞と～

ひな祭りの五人囃子は、能の囃子の4つの楽器(笛・小鼓・大鼓・太鼓)と謡1人の組み合わせで構成されている。ひな祭りの余韻が残る3月にプロの能楽師が、春のお能『西王母』と『鞍馬天狗』の一部分を、謡と囃子に加え舞も交えて上演する。藤田貴寛(一噌流笛方)や住駒充彦(幸流小鼓方)ら出演者の指導による能楽器の体験コーナーも併せて開催。
[日程] 3月7日
[会場] 伝国の杜置賜文化ホール

関東

●埼玉県富士見市

富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ
〒354-0021　富士見市大字鶴馬1803-1
Tel. 049-268-7788　矢野哲史
http://www.kirari-fujimi.com/

キラリふじみ×東南アジア＝舞台芸術コラボレーションvol.1 日本・タイ共同制作 『หลังเขาランカオ―私たちの森』

3カ年にわたる東南アジアの舞台芸術とのコラボレーション・プロジェクトの第1弾。本作品では、キラリふじみアソシエイト・アーティストの白神ももこ(振付家・ダンサー)を中心に、日本とタイからコンテンポラリーダンス、伝統舞踊、演劇、音楽と異なるジャンルで活動するアーティストが集まり、共同で作品づくりに挑む。
[日程] 3月22日～25日
[会場] 富士見市民文化会館 キラリ☆ふじみ

●千葉市

千葉県文化振興財団
〒260-8661　千葉市中央区市場町11-2
Tel. 043-222-0077　小川展輝
http://www.cbs.or.jp/

千葉県文化会館開館50周年記念事業　千葉県こども歌舞伎アカデミー　こども歌舞伎公演

今年で12回目を迎える「千葉県こども歌舞伎アカデミー」による歌舞伎公演。小学2年生から高校3年生までのアカデミー生が昨年9月から稽古し、その成果を発表する。開館50周年を記念した今回は、全盛期に100人近い芸者がいたとされる当時の風情を再現すべく、アカデミーで新たに振り付けをした『長唄 彩千葉華賑わい』や能狂言を元にした舞踊劇『常磐津釣女』などを披露する。
[日程] 3月11日
[会場] 千葉県文化会館

昨年度の様子

●千葉県市川市

市川市文化振興財団
〒272-0025 市川市大和田1-1-5
Tel. 047-379-5111　泉水佳菜子
http://www.tekona.net/bunkakaikan/

新人演奏家コンクール30周年記念オペラ「椿姫」市川オリジナル版

市川市文化振興財団が音楽家の発掘と育成を目指し、開催してきた「新人演奏家コンクール」の30周年を記念して、受賞者を中心としたオペラ『椿姫』を市川オリジナル版として公演する。新進気鋭の声楽家たちに加え、ピアノ、サックス、チェロのスペシャルアンサンブルを迎える。
[日程] 3月4日
[会場] 市川市文化会館

●東京都荒川区

荒川区民ミュージカル実行委員会
〒116-8501　荒川区荒川2-2-3
Tel. 03-3802-3111　棚田貴弘
http://www.acc-arakawa.jp/

区民ミュージカル『あらかわ宝物さがし物語～PART2～』

区制85周年を迎えた荒川区の宝物探しをしながら、今昔のさまざまな物語が繰り広げられるオリジナルミュージカル。オーデションで選ばれた小学生、中高生、大人の総勢57人が、生バンドをバックに歌い演じ踊る。地域の魅力が詰め込まれており、「ふるさと あらかわ」を楽しみながら知ることができる作品。
[日程] 3月25日
[会場] サンパール荒川

歌の指導を受ける出演者

●東京都板橋区

板橋区立美術館
〒175-0092 板橋区赤塚5-34-27
Tel. 03-3979-3251　弘中智子
http://www.itabashiartmuseum.jp/

20世紀検証シリーズ No.6 東京⇆沖縄　池袋モンパルナスとニシムイ美術村

美術館が収集方針に掲げている大正・昭和の日本前衛美術など、20世紀を振り返る展覧会のシリーズ第6弾。今回は、継続的な調査研究を続けている「池袋モンパルナス」をテーマに、池袋や落合に集った画家が、沖縄へ戻り「ニシムイ美術村」を建設したことに着目し、東京と沖縄の文化交流の一断面を紹介する。戦後沖縄の洋画をまとめて展示する東京では初の展覧会。
[日程] 2月24日～4月15日
[会場] 板橋区立美術館

●東京都立川市

立川市民オペラの会
〒190-0022 立川市錦町3-3-20
(公財)立川市地域文化振興財団内
Tel. 042-526-1312　岡崎未侑
https://tachikawaoperaassociation.jimdo.com/

立川市民オペラ公演2018 ヴェルディ作曲 歌劇「椿姫」

2017年に25周年を迎えた立川市民オペラが『椿姫』を初めて上演。ソリストは主にオーディションで選出された若手実力派と日本オペラ界の第一線で活躍するベテランが務める。オペラ専属の市民合唱団に加え、今年はこの公演のために市民オーケストラを結成。オペラの普及にも力を入れ、レクチャー&ミニコンサート、青少年向けゲネプロ見学会などの関連イベントも開催する。
[日程] 3月17日、18日
[会場] たましんRISURUホール(立川市市民会館)

昨年度公演『カルメン』第2幕より
撮影：長澤直子

●横浜市

かながわ伝統芸能祭実行委員会
〒220-0044 横浜市西区紅葉ヶ丘9-1(神奈川県立青少年センター舞台芸術課内)
Tel. 045-263-4475　藤岡審也
http://www.pref.kanagawa.jp/div/0230/

かながわ伝統芸能祭「地芝居2018」

青少年センターに設置された昔の芝居小屋の機構を受け継ぐ回り舞台や花道などを活用した地芝居公演。17回目の今年は、県内で地芝居の伝統を受け継ぐ5団体の中から、座間市の入谷歌舞伎保存会による『菅原伝授手習鑑―寺子屋の場―』を紹介。そのほか、相模里神楽垣澤社中(厚木市)による民俗芸能の実演から外郎売の口上研究会(小田原市)による創作舞台、実演を交えたレクチャーも開催する。
[日程]3月4日
[会場]神奈川県立青少年センター

●横浜市

横浜みなとみらいホール

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒220-0012　横浜市西区みなとみらい2-3-6
Tel. 045-682-2020　堀・白川
http://www.yaf.or.jp/mmh/index.php

ミュージック・イン・ザ・ダーク ～障がいとアーツ in 横浜～

世界的に活躍するヴァイオリニスト川畠成道、チェリスト古川展生らによるアンサンブル（コンサートマスター：三浦章宏）が全員楽譜を見ずに演奏し、プログラムの一部では会場の照明をすべて消して真っ暗闇の空間で行うコンサート。奏者も観客も、何も見えないという同じ条件の下で音楽を享受することで、視覚以外の感覚を研ぎ澄ませ、“音”だけを感じる神秘的な音楽体験をする。
［日程］3月17日
［会場］横浜みなとみらいホール

●相模原市

相模原市民文化財団
〒252-0303　相模原市南区相模大野5-31-1
Tel. 042-749-2110　内村敬三
http://hall-net.or.jp/04minamishimin/

語り琵琶『櫻の森の満開の下』

太宰治、壇一雄に並ぶ無頼派の鬼才、坂口安吾が描く究極の愛の物語『櫻の森の満開の下』を俳優の伊藤哲也が琵琶を片手にひとり弾き語りを行う。愛の物語でありながら世にも恐ろしい話を、琵琶の独特な音色が情景に深まりを与える効果を生み、物語に引き込まれていく。
［日程］3月16日
［会場］相模原南市民ホール

北陸・中部

●新潟市

新潟市芸術文化振興財団
〒951-8132　新潟市中央区一番堀通町3-2
Tel. 025-224-5614　今井美沙子
https://www.ryutopia.or.jp/

りゅーとぴあ演劇スタジオ キッズ・コース　APRICOT 2018春季公演 『ハイジ』―スタジオ・トライアル―

小学4年生から高校生までの約50人の子どもたちが台詞表現、歌やダンスなどを専門講師の指導を受けながらグループワークの中で力を合わせ、1年かけてつくり上げる音楽劇。今回は12年ぶりにりゅーとぴあ演劇部門芸術監督の笹部博司が演出を手がけ、2018年8月の劇場公演に先駆けて全編の中からメインシーンを抜粋して上演する。
［日程］3月17日～20日
［会場］りゅーとぴあ　新潟市民芸術文化会館

APRICOT2017春季公演「お芝居探検隊2017」

●富山県富山市

富山県水墨美術館
〒930-0887　富山市五福777
Tel. 076-431-3719　遠藤亮平
http://www.pref.toyama.jp/branches/3044/3044.htm

生誕140年　尾竹竹坡展

新潟に生まれ、富山で青年時代を過ごし上京した画家・尾竹（1878～1936）の初となる本格的な回顧展。第4・5回文展で最高賞を受賞して一躍画壇の寵児となった竹坡は、第7回文展落選をきっかけに実験的な日本画を描き始める。本展では、約60点の代表的な作品と資料により、驚くほど多彩な作品を描いた竹坡の画業の全貌を紹介する。関連企画として竹坡の兄・国一（越堂）を紹介する企画展が富山市郷土博物館（富山城）で開催される（2月3日～4月15日）。
［日程］2月16日～3月25日
［会場］富山県水墨美術館

●富山県砺波市

砺波市文化会館
〒939-1382　砺波市花園町1-32
Tel. 0763-33-5515
http://tonamibunka.or.jp/bunka/index.html

となみの合唱祭

「合唱の感動を地域の人々とともに」をテーマに、さまざまなワークショップを開催するとともに、世代を越えて合唱の感動を地域の人々と共感しあう事業。3カ年計画の1年目。今年は、市内の学校の合唱クラブ・合唱部の子どもたちと社会人合唱団、公募により集まった参加者、総勢180人が参加する。
［日程］3月25日
［会場］砺波市文化会館

●福井県福井市

福井県文化振興事業団
〒918-8152　福井市今市町40-1-1
Tel. 0776-38-8280　石井美咲
https://www.hhf.jp/

ジュニアが輝く！ “音楽の森”コンサート2018

たくさんの子どもたちに、弦楽器によるアンサンブルの楽しさ、仲間と音楽をつくり上げる喜びを知ってほしいとの想いから開講されている「福井ジュニア弦楽アンサンブル・セミナー」。12年目を迎える今回は小学5年生から大学生までの17人が受講し、本コンサートで約1年間の練習の成果を披露する。
［日程］3月21日
［会場］ハーモニーホールふくい

●山梨県甲府市

コラニー文化ホール
〒400-0033　甲府市寿町26-1
Tel. 055-228-9131　加藤信一
http://www.yamanashi-kbh.jp/

ミュージカル『シンデレラ～ねずみたちのプリンセス』

山梨を代表する舞台作品を目指し、脚本・作曲からキャスト、舞台裏方スタッフに至るまで、山梨県出身・在住メンバーが集結した創作ミュージカル。名作童話『シンデレラ』をモチーフに、感動を共にし、笑顔があふれる舞台をつくり上げる。地元和紙メーカーのオリジナル和紙素材「ナオロン」を使用した衣装や小道具も見どころのひとつ。
［日程］3月10日、11日
［会場］コラニー文化ホール

『シンデレラ～ねずみたちのプリンセス』北杜市公演（2017年11月）

●長野県松本市

まつもと市民芸術館
〒390-0815　松本市深志3-10-1
Tel. 0263-33-3800　小川知子
https://www.mpac.jp/

まつもと演劇工場6期生・作品 『ミステリヤ・ブッフ』

松本市民を中心とした一般参加者とプロのアーティストが約半年間、さまざまなワークショップや稽古を通して演劇作品を創作する「まつもと演劇工場」。役者としてだけでなく、舞台道具製作にも携わり、舞台をつくり上げる。今回は、新たな表現や劇場を探し求めながら、聖書の伝説とロシア革命をモチーフとしたウラジーミル・マヤコフスキーの戯曲作品に6期生が挑む。
［日程］3月17日、18日
［会場］まつもと市民芸術館

●長野県上田市

上田市交流文化芸術センター

サントミューゼ
〒386-0025 上田市天神3-15-15
Tel. 0268-27-2000　横尾慎二
https://www.santomyuze.com/

劇団太陽族公演「Sumako」―或新劇女優探索記―

劇団太陽族の岩崎正裕が上田オリジナル作品を制作。長野県松代に生まれ、上京して新劇女優として人気を博すも、島村抱月の後を追って命を絶った女優・松井須磨子の生きざまと内面に迫る。レジデント・アーティストとのコラボ企画として、地元から俳優や合唱団も加わり、新たな舞台を模索する。
[日程] 3月10日、11日
[会場] 上田市交流文化芸術センター サントミューゼ

●長野県原村

八ヶ岳美術館
〒391-0115　諏訪郡原村17217-1611
Tel. 0266-74-2701　長田絵美
http://www.lcv.ne.jp/~yatsubi1/

感性の織りⅡ～福祉の現場で生まれた作品展～

2015年に「福祉の現場での織り」に着目して開催した展覧会「感性の織り」の2回目。全国各地の7つの福祉施設で生み出された裂き織りなどの織作品、刺繍や糸を使った作品など、計116点を展示し、“織り”という行為の可能性について考える。また、各事業所や工房における、作品が生まれるサポートとしての取り組みについても併せて紹介する。
[日程] 2017年12月2日～3月25日
[会場] 八ヶ岳美術館

●名古屋市

名古屋市美術館
〒460-0008　名古屋市中区栄2-17-25
Tel. 052-212-0001　角田美奈子
http://www.art-museum.city.nagoya.jp/

真島直子　地ごく楽

名古屋市出身の美術家・真島直子にとって郷里で開催される初めての大規模個展。初期から絵画作品とオブジェやインスタレーションによる立体作品の制作を行い、1990年頃から始めた〈地ごく楽〉シリーズによって、発生し死滅する人間を存在の根源的な様態において捉えようとする表現が、今日の日本を代表する作家のひとりとして認められる。2000年頃からは鉛筆画を自立した作品として制作。本展では、〈地ごく楽〉シリーズなどの代表作品に初期作品と油彩画の近作を加えて作家の創作の歩みを紹介する。
[日程] 3月3日～4月15日
[会場] 名古屋市美術館

●愛知県豊田市

豊田市美術館
〒471-0034　豊田市小坂本町8-5-1
Tel. 0565-34-6610　能勢・北谷・鈴木
http://www.museum.toyota.aichi.jp/

ビルディング・ロマンス―現代譚(ばなし)を紡ぐ―

身近なものとの関わりの中から、現代における“ロマン”を現在の表現に探ることで、観客と展覧会の新たな結びつきを目指す試み。アピチャッポン・ウィーラセタクンや飴屋法水など、映画や演劇で多方面に活動する作家が参加。会期中は、「搬入プロジェクト」などのパフォーマンスで知られる悪魔のしるしのイベントも開催されるほか、愛知県出身の志賀理江子が、地域のリサーチを基に、自動車製造に関わる人々の眠る姿を撮影した新作も展示される。

志賀理江子『タイトル未定』(2017年)

[日程] 1月20日～4月8日
[会場] 豊田市美術館

●愛知県武豊町

舞台芸術の魅力発信事業実行委員会
〒470-2555　知多郡武豊町字大門田11
Tel. 0569-74-1211　高橋洋子
http://www.town.taketoyo.lg.jp/kaikan/

桑原裕子の戯曲リーディング『痕跡《あとあと》』

2014年鶴屋南北戯曲賞を受賞した桑原裕子の戯曲『痕跡《あとあと》』のリーディング公演。オーディションにより選ばれた11人の市民とKAKUTAの俳優たちが共に稽古を重ね、舞台に立つ。演出はKAKUTA団長の成清正紀。出演者以外のメンバーも主体的に演出助手や広報をサポートする応援隊を組織し、皆で一つの公演を創り上げる。
[日程] 3月25日
[会場] ゆめたろうプラザ

近畿

●滋賀県甲賀市

滋賀県立陶芸の森
〒529-1804　甲賀市信楽町勅旨2188-7
Tel. 0748-83-0909　三浦弘子
http://www.sccp.jp/

ジャズ・スピリットを感じて…熊倉順吉の陶芸×21世紀の陶芸家たち展

新しい信楽焼の発信に尽力してきた熊倉順吉(1920～)は、ジャズの響きを土で受け止めようと試みる中で、信楽焼の日常の焼きものの釉薬や技法をヒントに、新しく鮮烈な作品に仕上げてきた。本展では、戦後の前衛陶芸を率いた熊倉の陶芸と、1970年代のクラフトデザイン運動の盛り上がりの中、産地信楽から刺激を受けた日常の器を紹介。企画を通して彼の熱い精神にふれ、信楽で滞在制作した若手作家たちの作品も併せて展示する。
[日程] 3月10日～6月17日
[会場] 滋賀県立陶芸の森

熊倉順吉《飛翔するSOUND》(1981年制作)　滋賀県立陶芸の森蔵

●京都市

京都芸術センター
〒604-8156　京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
Tel. 075-213-1000　堀越芽生子
http://www.kac.or.jp/

KAC Performing Arts Program 2017 / Traditional Performance 継ぐこと・伝えること60「沓占式―下駄占い―」

開設当初より続く、伝統芸能の“現在”に着目し、実演や解説などを交えてわかりやすく紹介し、芸能の継承の意義について考えるプログラム「継ぐこと・伝えること」。60回目の今回は、島根に伝わる下駄占い「沓占式(とうせんしき)」を取り上げ、沓占式第17代家元の齋藤登による実演と、大蔵流狂言師である茂山童司とのトークを通して、伝統の継承過程を検証する。第2部では「芸能を継承すること」をテーマにディスカッションを実施。
[日程] 3月4日
[会場] 京都芸術センター

●大阪府吹田市

吹田市文化振興事業団

〒564-0041 吹田市泉町2-29-1
Tel. 06-6380-2221　日和香
http://www.maytheater.jp/

リーディング劇『カレーと村民』

2013年、吹田メイシアター×大阪大学共同事業市民演劇として劇作家ごまのはえが明治期の吹田村を舞台に書き下ろし上演された『カレーと村民』。今回は小原延之の演出で、オーディションで選ばれた市民13人の出演により、リーディング劇として蘇らせる。吹田の民話や歴史資料を題材に、今と昔を結び付けながら“地域の記憶”をたどっていく。
[日程] 3月17日、18日
[会場] 吹田歴史文化まちづくりセンター 浜屋敷

●兵庫県姫路市

姫路市立美術館
〒670-0012　姫路市本町68-25
Tel. 079-222-2288　谷口依子
http://www.city.himeji.lg.jp/art/

イメージを織る

「コプト織の世界」「キリムからペルシャ絨毯へ」「西洋の綴織」「明治期の綴織―制作の過程から―」の4つのセクションからタピストリー(綴織壁掛)の魅力を紹介する展覧会。日本で紹介されることの少ない16～17世紀の西洋のタピストリーや、明治期の綴織を代表する二代川島甚兵衛の作品が初めて織下絵とともに展示され、“イメージを織る”という行為の魅力に迫る。
[日程] 2月10日～3月25日
[会場] 姫路市立美術館

●兵庫県伊丹市

伊丹市民オペラ公演実行委員会事務局
〒664-0895 伊丹市宮ノ前1-3-30
(伊丹アイフォニックホール内)
Tel. 072-780-2110　澤野・孫
http://hccweb1.bai.ne.jp/aiphonic/event/zisyu/2012.html

第32回伊丹市民オペラ定期公演『セヴィリアの理髪師』

毎年3月に開催している伊丹市民オペラ定期公演は、地域に根ざした文化の創造を目的に、市民と芸術家との協働によって、新人の発掘・育成およびオペラを通して地域の文化振興を実践することを目指している。32回目を迎える今回は、海外で活躍する外国人講師を迎えてレッスンをする「マスタークラス」を行い、クオリティーの高いオペラを上演する。
[日程] 3月25日
[会場] 東リ いたみホール

●兵庫県豊岡市

豊岡市民プラザ／NPO法人プラッツ
〒668-0031　豊岡市大手町4-5 アイティ7F
Tel. 0796-24-3000　居相歩美
http://platz-npo.com/

劇団「演劇FACTORY」公演『土の詩～夢の果てに～』

NPO法人プラッツがプロデュースする市民劇団「演劇FACTORY」。2016年9月に劇団を立ち上げ、高校生から60歳代まで約30人の住民が参加。但東町のさまざまな人と市民劇団が制作協働し、実現した。本公演では豊岡市但東町旧高橋村「満蒙開拓団」の史実を背景に、現代社会を交差させて描く劇団オリジナル作品を上演する。
[日程] 3月17日、18日
[会場] 但東市民センター

演劇FACTORY旗揚げ公演『土の詩～時の記憶～』(2017年3月)

中国・四国

●鳥取県鳥取市

鳥取県文化振興財団
〒680-0017 鳥取市尚徳町101-5
Tel. 0857-21-8700　野田景子
http://cms.sanin.jp/p/zaidan/5/1/1/3/

鳥取県文化振興財団プロデュース創作公演 第3弾 舞踊公演

特色ある地域文化の伝承・発展、そして新しい文化芸術の創造を目指してオリジナルの舞台公演を制作する事業。第3弾は、鳥取県の風土やその土地に住む人々にインスピレーションを受けながら創作した島地保武振付作品『夢の破片』と、公募により集まった鳥取在住の人々も出演する近藤良平振付作品『あげだがん　上げてどうする　そげだがん』の2作品を上演する。
[日程] 3月3日、4日
[会場] とりぎん文化会館

●島根県出雲市

出雲市芸術文化振興財団
〒693-0023　出雲市大社町杵築南1338-9
Tel. 0853-53-6500　春木靖志
http://izumo-zaidan.jp/tag/urarakan_event/1079

出雲の春音楽祭2018

天才モーツァルトと、出雲にゆかりの深い2人の作曲家、鈴木輝昭と平野一郎の作品を中心に、2週にわたる4つのステージで開催。1週目は平野が出雲国の神話・伝承・風土に拠って作曲した管弦楽・声楽のための『交響神樂』2作(世界初演)と『フィガロの結婚』序曲のコンサートなど、2週目は大岡信作詩・鈴木作曲による『頌歌　天地のるつぼ―出雲賛歌―』など邦楽アンサンブルと合唱によるコンサートを開催。“出雲ならではの音楽”を届ける。
[日程] 3月18日、25日
[会場] 大社文化プレイスうらら館

●島根県雲南市

雲南市演劇によるまちづくりプロジェクト実行委員会
〒699-1311　雲南市木次町里方55(チェリヴァホール内)
Tel. 0854-42-1155　糸川悠介
http://www.cheriver.com/

雲南市創作市民演劇第8弾『水底平家 みなそこへいけ』

「演劇で地域を盛り上げよう」を合言葉に、2010年から取り組んでいる市民創作劇の第8回公演。作品は、平家物語の眼目とも言える一ノ谷の合戦や壇ノ浦の戦いを中心に、時代と人間を描きだす壮大な歴史ファンタジーで、好評だった2013年の初演からのリメイク上演となる。
[日程] 3月31日、4月1日
[会場] チェリヴァホール(雲南市木次経済文化会館)

●岡山県倉敷市

倉敷市文化振興財団
〒710-0052 倉敷市美和1-13-33
Tel. 086-434-0505　日下紀文
http://arsk.jp/m-fes/

第32回倉敷音楽祭

毎回特集地域を定め、日本各地で育まれた特色ある音楽文化を招聘する音楽祭。今回の特集地域は「首都圏」。市川海老蔵特別公演『源氏物語』、三遊亭円楽らによる「江戸花形落語会」などプロが出演する公演のほか、倉敷市内の音楽団体による合同コンサートなど市民参加・制作による公演も行われる。また期間中は町並みコンサートや伝統芸能の実演など、街なかでさまざまなイベ

市民参加の『町並みコンサート』の様子

ントも開催される。
[日程] 3月9日～25日
[会場] 倉敷市芸文館、倉敷市民会館ほか

●広島県廿日市市
はつかいち市民ミュージカル運営委員会
〒738-0014 廿日市市住吉2-2-16（廿日市市市民活動センター内）
Tel. 090-8602-4460　みつふじひろあき
https://hatsukaichi-shimin-musical.jimdo.com/

はつかいち市民ミュージカル 第19回公演『モモウィズアリス』

2000年から公演を重ねる恒例の市民ミュージカル。小学生から大人までさまざまな年代のメンバーが、発足当時から全作品の脚本・演出を務めるみつふじひろあきの指導の下、1月から本格的に練習を始め、その成果を披露する。19回目となる今回は、ミヒャエル・エンデ原作の『モモ』とルイス・キャロル原作の『不思議の国のアリス』、2つの物語がコラボしたオリジナルミュージカルを上演。
[日程] 3月17日
[会場] はつかいち文化ホールさくらぴあ

●香川県高松市
高松市文化芸術財団
〒760-0019 高松市サンポート2-1
Tel. 087-825-5010　大喜多菜摘
http://www.sunport-hall.jp/

第7回サンポートホール高松 デビューリサイタル

香川県にゆかりのある新進音楽家をサポートするプログラム。7年目の今年は、選考会を経て出演が決まった4名の香川県出身の若手音楽家（フルート2名、クラリネット、マリンバ）が、恩師や家族、友人の住む故郷でデビューを飾る。
[日程] 3月3日、4日
[会場] サンポートホール高松

九州・沖縄

●福岡県直方市
筑豊美術館ネットワーク
〒822-0017　直方市殿町10-35
Tel. 0949-22-0038　市川靖子
http://yumenity.jp/tanio/

第3回逸品もちより展 ―子どもスタッフセレクション―

直方谷尾美術館、嘉麻市立織田廣喜美術館、田川市美術館の逸品もちより企画の第3弾。各館の学芸員が選ぶ逸品と、6月から活動を開始した、小学3年生から中学1年生までの11人の子どもスタッフが、「わたしの行ってみたい場所」をテーマに選んだ作品と模写を展示する。子どもスタッフが関わる展覧会としては11回目で、会期中には、学芸員と子どもスタッフによるギャラリートークや、子どもスタッフが講師となって開催するワークショップも行われる。
[日程] 1月27日～3月18日
[会場] 直方谷尾美術館

●長崎県長崎市
長崎県美術館
〒850-0862　長崎市出島町2-1
Tel. 095-833-2110　森園敦
http://www.nagasaki-museum.jp/

長崎県名誉県民　松尾敏男展

長崎県名誉県民である日本画家・松尾敏男（1926～2016）の没後初となる回顧展。松尾が生前より自身によってリストアップしていた作品を中心に、20歳の時の作品から実質上の絶筆である《玄皎想》に至るまで、長きにわたる松尾芸術の粋が約60点の作品によって紹介される。
[日程] 1月16日～3月11日
[会場] 長崎県美術館

●長崎県小値賀町
おぢか国際音楽祭実行委員会
〒857-4702　北松浦郡小値賀町前方郷3874
Tel. 080-6438-7273　江川
http://www5a.biglobe.ne.jp/~takafami/takapi/ojika/ojika.html

第17回おぢか国際音楽祭

五島列島の小値賀島・野崎島を舞台に開催される音楽祭。今回もピアニストで東京藝術大学准教授の青柳晋を音楽監督に招き、ピアノ・ヴァイオリン・チェロのマスターコースが開かれるほか、旧野首教会や寺院など島内の歴史的建造物を会場にしたコンサート、老人ホームなどでの慰問コンサートが開催される。各コンサートにはマスタークラス受講生も出演。今回は初めての試みとして室内楽レッスンも行われる。
[日程] 3月27日～30日
[会場] 離島開発総合センターほか

●熊本市
熊本市現代美術館
〒860-0845　熊本市中央区上通町2-3
Tel. 096-278-7500　佐々木玄太郎
http://www.camk.or.jp/

熊本城×特撮美術 天守再現プロジェクト

熊本出身の特撮美術監督・三池敏夫の指揮のもと、ミニチュア特撮の技で熊本城を20分の1のスケールで製作（高さ約2m）。実際の熊本城は2016年の熊本地震で大きなダメージを受け、現在も修復工事の途上にあるが、本展ではミニチュアを通してその本来の姿を再現。またこれと併せて城下の街並みをイメージしたセットを製作し、熊本城を望むまちの風景を蘇らせた。来場者はこのセットの中で、特撮映画ばりの迫力の写真撮影を楽しむことができる。この他、各種資料を通して熊本城の過去・現在・未来を紹介している。
[日程] 2017年12月16日～3月18日
[会場] 熊本市現代美術館

●大分県大分市
iichiko総合文化センター
〒870-0029　大分市高砂町2-33
Tel. 097-533-4004　橋本修
http://www.emo.or.jp/

第2回大分ブロードウェイミュージカルシアター

ブロードウェイミュージカルの楽曲を使用したショートレビュー公演。出演者は平成22年度から毎年継続して実施しているミュージカル体験ワークショップの参加者を中心に県民から広く公募。日本ミュージカル界で活躍した野口アキラや現在、歌唱指導で活躍中の小林仁ら一流講師陣の指導の下、小学1年生から70歳までの約80人により全16演目を昼夜2回上演する。
[日程] 3月11日
[会場] iichiko総合文化センター

●鹿児島県霧島市
霧島国際音楽ホール
〒899-6603　霧島市牧園町高千穂3311-29
Tel. 0995-78-8000　帖地宏治
http://miyama-conseru.or.jp/

Power of Voice ～声力（こえぢから）・唄力（うたぢから）～

世界の歌が大集結する“ココ”でしか聴けないコンサート。北海道や東北、沖縄民謡などの国内の民謡や、アルタイ山脈周辺に伝わる特殊な発声・歌唱法の喉歌（のどうた）、スイスの民謡で牧童が山裾の村と連絡を取る叫びから発達したヨーデル、ジャズ、ゴスペル・コーラスなどを紹介。ジャンルを超えたコラボレーションも予定している。
[日程] 3月18日
[会場] 霧島国際音楽ホール（みやまコンセール）

▼—今月の情報（アーツセンター編）

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●データの見方
情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い
地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター（ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます）の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄で掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先
地域創造情報担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

●山形県大石田町

大石田町町民交流センター 虹のプラザ

〒999-4112　山形県北村山郡大石田町緑町28
Tel. 0237-35-2094
http://niji.town.oishida.yamagata.jp

◎2017年9月1日オープン

交流センターや図書館、保健センター、子育て世代活動支援センター、社会福祉協議会が一体となった複合施設。地域活動の新たな拠点として整備され、施設の愛称は、最上川にかかる虹のように美しく輝き、多くの人の架け橋となるべく名付けられた。
多目的ホールは演劇を主体としながらも多肢にわたる発表形態に対応可能。会議室エリアは展示会などのイベント時に廊下・ホールを取り込んだ多様なスペースづくりが可能。また、開放的な吹き抜けのエントランスホールには交流サロンや談話コーナーを設け、自由に使用ができる。
町役場のそばという立地を生かし、公的機関を集中させて利用者の利便性を高めている。本を探したり、子育てや福祉の相談をしたり、サークル活動をしたりと、子どもから高齢者までさまざまな形で利用できる施設となっており、誰もが気軽に足を運ぶことができる施設を目指す。
［オープニング事業］山形県民芸術祭開幕式典　記念公演　虹を呼ぶひと—愛し恋し心のふるさと—
［施設概要］多目的ホール（343席）、図書館（800m²）、会議室、リハーサル室ほか
［設置・管理・運営者］大石田町
［設計者］（株）奏・伊藤設計

●茨城県土浦市

土浦市民ギャラリー

〒300-0036　土浦市大和町1-1 アルカス土浦1F
Tel. 029-846-2950
http://www.city.tsuchiura.lg.jp/page/dir010472.html

◎2017年11月27日オープン

土浦駅前北地区再開発事業の一環として市立図書館とともに整備された、土浦市としては初めてとなる本格的なギャラリー。両施設が入る「アルカス土浦」という名称は、Arts and Culture Spaceに由来しており公募で決定した。
個展や団体展、市収蔵品展などさまざまな展覧会に対応できる2つの展示室を備え、このうちオープンギャラリーは、個展・グループ展向きで、最大4つに分割することができる。展示ギャラリーは白と黒を基調にした展示室で、本格的な美術品展示が可能となっている。
茨城県内で最も歴史のある市民公募の展覧会「土浦市美術展覧会」（市展）や貸しギャラリーなど、市民の発表の場として運営していくほか、優れた芸術文化の鑑賞機会をつくるため、企画展や収蔵品展も開催する。
［オープニング事業］茨城県近代美術館　移動美術館—茨城ゆかりの洋画家たち—
［施設概要］オープンギャラリー（第1～4室、50～52m²）、展示ギャラリー（第1室147m²、第2室135m²）ほか
［設置者］土浦市
［管理・運営者］土浦市教育委員会
［設計者］INA新建築

●岡山県玉野市

玉野市立図書館・中央公民館

〒706-0011　玉野市宇野1-38-1 天満屋ハピータウン・メルカ2F
Tel. 0863-31-3711
https://library.city.tamano.okayama.jp/

◎2017年4月1日オープン

新たな“まちの賑わい創出拠点”として、ショッピングモール・メルカ2Fに移転しリニューアルオープンした図書館と公民館の複合文化施設。
「つどう・まなぶ・むすぶ」をコンセプトとした、約4,200m²に及ぶ館内にギャラリーや研修室、料理実習室、和室などの公民館機能が点在。館内の研修室や料理実習室、実習室は半ばガラス張りで、公民館講座などの活動内容を知ることができ、図書館では講座内容に関する資料展示なども実施していく。また玉野市出身の著名アーティストのプロフィールや作品を紹介する“たまののミュージアム”も館内に併設されている。
気軽に集まることができるコミュニケーションの場、“憩いの空間”という機能を活かし、好循環システムに支えられた「社会が人を育み、人が社会をつくる」協働のまちづくりを目指す。
［オープニング事業］荒俣宏氏講演会「本にまつわる物語」ほか
［施設概要］図書館（2,260m²）、ギャラリー（376m²）、たまののミュージアム（150m²）、多目的（防音）室（2室）、研修室（4室）ほか
［設置者］玉野市
［管理・運営者］共同企業体 TRC玉野
［設計者］（株）三上建築事務所

＊地域創造レターは再生紙を使用しています

沖縄県竹富町

シンポジウム「民俗芸能の未来のために 今できること—継承者育成の実践と精神—」

第2部で行われた芸能交換会
上：「道唄」（与那国民俗芸能伝承保存会）
下：「むりか星」（竹富公民館）

●民俗芸能の未来のために 今できること—継承者育成の実践と精神—
［主催］一般社団法人与那国フォーラム
［会期］2018年1月26日
［会場］竹富島まちなみ館
※同時中継：DiDi与那国交流館
［パネリスト］亀井保信（玻座間民俗芸能保存会）、花城正美（小浜民俗芸能保存会）、古見代志人（祖納公民館）、山下義雄（干立公民館）、小岩秀太郎（公益社団法人全日本郷土芸能協会）、三木剛志（公益財団法人日本離島センター）、宮良純一郎（与那国民俗芸能伝承保存会）

＊1　一般社団法人与那国フォーラム
2016年に設立（外間守吉代表）。同年9月に開館したDiDi与那国交流館を、指定管理者として管理運営している。

＊2　沖縄県と沖縄県文化振興会による支援
「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」（2012～16年度）、「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」（2017年度～）として、県内民間事業者の取り組みを支援する補助事業。財政的支援に加え、文化芸術に関わる専門性をもったプログラム・オフィサーを置き、助言・相談等、事業者と随時協働して事業運営にあたる点に特徴がある。通称「沖縄版アーツカウンシル事業」。

高齢化や人口減少などにより民俗芸能の継承が各地で課題となっている。こうした継承方法を考える注目すべき取り組みが国指定重要無形民俗文化財「与那国島の祭事の芸能」（1985年指定）を有する与那国島で始まっている。1月26日、その関連企画「民俗芸能の未来のために 今できること—継承者育成の実践と精神—」が竹富町竹富島まちなみ館で開催された。

これは、一般社団法人与那国フォーラム(＊1)が沖縄県と公益財団法人沖縄県文化振興会の支援(＊2)を得て2016年度から行ってきた調査事業の集大成として実施されたものだ。最大の特徴は、芸能の継承者自らが同じ離島環境で継承に取り組む竹富島、西表島、小浜島など7島の現地調査を行い、島を越えた関係づくりによる人材育成を行うところ。調査報告とともに、有識者のシンポジウム、与那国島と竹富島の芸能交換会も行われ、深夜まで交流が続いた。

●

冒頭、与那国民俗芸能伝承保存会相談役の宮良純一郎さんは、「与那国では地域の自治公民館を中心として芸能の継承が行われてきたが、師匠世代と演者世代の年齢差が広がり大きな課題となっている。広く八重山の継承を参考にして今できることを考えていきたい」と挨拶。調査報告では、「鳩間島では師匠がいなくて、先輩が後輩に教えている。こういうやり方もあるのかと思った」「竹富島では親が子どもを連れて自然に参加できるような場が常に確保されている。これが継承の下支えになっていると感じた」など、継承者ならではの視点が示された。

また、「子どもと祭事の関わり」をテーマにしたシンポジウムでは、玻座間民俗芸能保存会顧問の亀井保信さんが、竹富島の国指定重要無形民俗文化財である「種子取祭」について「種子取祭は見世物ではなく、神様に奉納するもの。そうした芸能の背景にある、無くてはならない精神についても若い継承者に伝えていく必要がある」と指摘。40歳代の西表島・干立公民館長、山下義雄さんは「親世代の多くが観光業に従事するようになり、芸能に込められた自然への願いや感謝、集落の共同性といった精神性を感じる機会が薄れている。学校教育と連携し、稲作、漁業、紙漉きといった体験学習を通して、島の言葉や先人たちの思いを伝えることが、島を離れた時、自分のルーツとして子どもたちの宝物になる」と若い世代からの見解を話した。

芸能交換会では、この日に向けて稽古を重ねてきた与那国島5集落の若手合同による実演と、竹富島3集落による実演が交互に披露された。幕開けの「道唄」（ゲストを歓迎する踊り）では与那国島の立方から各地域のゲストに供物が手渡され、賑やかに交流がスタート。また、竹富島からは子どもたちが立派に演じた「むりか星」など、層の厚さを感じさせる実演が続いた。与那国からの来訪を受け入れた竹富公民館長の上勢頭篤さんは「次は与那国島に竹富の芸能を運びたい」と会場を沸かせていた。

立ち上げから事業を支援してきた沖縄県文化振興会のプログラム・オフィサー（PO）が、八重山諸島の民俗芸能研究者であり、14年前から竹富島に通っている遠藤美奈さんだ。「八重山諸島の祭事は、地域自治が優れているため継承が上手く行われているように見られがちだ。祭事は秘匿性の高いものもあるが、理解しあえる近隣の島に住む人たちが顔を合わせ、課題を持ち寄って時間を共有することは、自らの故郷の芸能の在り方を考える上でとても重要だと思う」と遠藤さん。

イベントの翌日、与那国の担い手たちに感想を聞いた。「いつもは行事を担うという義務感が強いが、初めて同世代だけで島外に出て、楽しさを感じながら開放的な気持ちで踊れた」「竹富の師匠たちの子どもたちへの関わり方を見て、自分もこんな風に教えたいと思った」「今回のために化粧、着付けもすべて自分たちでできるように頑張ってきた。そのことを褒めてもらって、これでよかったんだと確信がもてた」など、確かな刺激を得たようだ。

中学卒業とともに島を出ざるを得ない離島では世代間継承が難しい。芸能の交流が地域内の空白を越えた“継承への力”に繋がっていくのか。学びあいの姿に可能性を感じた。

（野村政之）